

1. 実況上の着目点

- ① 大陸には高気圧、オホーツク海には発達中の低気圧があつて、日本付近は西高東低の冬型の気圧配置となっている。日本海には筋状雲が広がっており、北日本では12時間に50cm前後の降雪を観測している所がある。また、日本海西部から北陸地方付近、東海道沖から関東の東にかけて地上のシアーラインがのび、周辺では雷を検知しやや強い雨を解析。
- ② 500hPa5400m付近の -27°C 以下の寒気を伴ったトラフが日本海にあつて、南東進。



主要じょう乱解説図

- ③ 冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風や強い風、局地的には非常に強い風が吹き、波が高く大しけとなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の冬型の気圧配置は、19日ははじめにかけて続く。北日本には850hPa $-9^{\circ}\sim-12^{\circ}\text{C}$ の寒気が流入し、大雪となる所がある。北日本では18日は大雪による交通障害に警戒し、着雪やなだれに注意。西～東日本の山沿いでは積雪や路面凍結による交通障害に留意。一方、北陸地方の平地では降水が続くため、19日にかけて、土砂災害、河川の増水に注意・警戒。
- ② 1項②のトラフは、19日朝にかけて西～北日本を通過する。また、1項①のシアーラインは、18日夜にかけてのびる。上空寒気やシアーラインの影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。西～北日本では19日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 20日は、500hPaトラフに対応する低気圧が夜にはサハリン付近へ進み、地上のシアーラインが日本海にのびる。シアーラインに向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。北日本では20日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の冬型の気圧配置及び2項③のシアーライン周辺では気圧の傾きが大きくなる影響で、強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高く大しけとなる所がある。北海道地方と沖縄地方では19日にかけて、高波に警戒。西日本では19日にかけて、南西諸島と東～北日本では20日にかけて、強風や高波に注意。北日本では18日は、風雪にも注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：東北30、北海道20cm。
- ③ 波浪(明日まで)：北海道・沖縄6、その他広く3～4m。
- ④ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。